

# 走

二年

画数 7  
筆順 ナ 土 丰 丰 走

クソ ソウ  
はしるる

成の立ち



走

人が「走<sup>はし</sup>っている」すがたをあらわした「土」と、足のうらのかたちをあらわした「止（止）」とをくみあわせてつくった字です。

「土」だけでは、「土<sup>つち</sup>」とくべつがつきません。それで、「足」のいみの「止」をくわえました。

「はしる」とよみます。

「足」の音はソク、「走」の音はソウです。字がにているように、音もにています。

また、ものごとをいそいですることをあらわすのにつかいます。「ふてを走らせる」とは、「いそいで字をかく」ことをあらわしたいいかたです。

使い方

▽学校におくれそうになつたので、いそいで走っていました。

▽自動車が行っている道路では、よく、きをつけてあるさましよう。

熟語例

▽競走（だれがはいか、走るはやさをくらべること。かけくらべ）

▽滑走（すべるように走ること。とくに、ひこうきがりりくしたり、ちやくりくしたりするとき、すべるように走ることを行います。滑走するためのみちを「滑走路」といいます。ひこうじようには、この「滑走路」があります。）

▽暴走（乱暴な走りかたをすること。よなかなど、オートバイにのつた「暴走族」が、すごいおとをたてて走っていくことがあります。）

▽敗走（たたかいにまけて、にげること。）

▽御馳走（とてもすばらしいたべもののこと。りょうりのざいりようを、走りまわつてととのえることから「馳走」といいます。「馳」も走ることです。）

# 多

二年

画数 6  
筆順 ノ ク タ 多

クソ おおしい

成の立ち



多

「夕べ」といういみの「夕」の字を二つかさねた字で、「きのうの夕べも、きょうの夕べも」というように、ものがかさなって「おおい」ことをあらわしたものです。

「おおい」こと。

また、「とても」といういみにもつかわれます。

「これも説文の説であるが、今は、「夕」は「肉月」とする説が有力である。「肉を二つ重ねて肉の多いことを表した」とするのである。しかし二年生では、一年生の時に学んだ「夕（1947）」と見た方が理解しやすいと思ひ、あえて古い説に従った。」

使い方

▽雑多（なにごとで多忙なまい日でした。）

▽多勢（無勢で、とてもかまいません。）

▽多少でも多量（でもさしつかえありません。）

▽多才（人だてしたが、おしいことに多病でした。）

熟語例

▽雑多（雑はいろいろなもの。いろいろと多くのものが入りまじっていること。）

▽多量（多くの量）。数が多いこと。）

▽多勢（多くの量）。量が多いこと。）

▽多才（大勢）。人数が多いこと。）

▽多才（才が多い）こと。才能がゆたかなこと。）

▽多病（病気になることが多い。病気がちなこと。）

▽多忙（しごとが多くて忙しいこと。とても忙しいこと。）

▽多感（とても感じやすいこと。）

▽花多きは実少なし（花があつてはじめて実がみられるのだが、花が多すぎるとかえつて実が少くない。それに、ことばのりつばな人はおこないがともなわず、また、口かずが多いと下品に見える、というおしえ）